

## Ⅱ とちぎ農業“進化”躍動プラン関連の主な取組

### 1 トピックス

#### (1) 河内地域園芸講演会等の開催

河内地域の園芸産出額は、30年間で50億円増加し、産出額に占める割合も28%から54%に増加するなど、県内でも園芸の割合が高い地域として発展してきました。

今後とも収益力がある園芸が本地域農業の柱として発展していくためには、関係機関が一体となり施設園芸の高度化に加え、「土地利用型園芸」を推進する必要があります。

そこで、管内農業者や関係機関を対象に、平成30(2018)年7月、8月及び11月に「土地利用型園芸」セミナーを開催し、のべ120名の参加者に対して、近年の農産物の流通、消費の現状とそれに対応した園芸作物生産の方向性、水田から園芸作物に転換した先進事例等について紹介しました。

さらに、1月には、生産者やJA・市町職員等約170名の参加のもと、都市近郊という当地域の強みを活かした園芸振興策を検討する「園芸立国“かわち”進化・躍進フォーラム」を開催しました。

これらセミナーやフォーラムを契機に河内地域の園芸の一層の発展が期待されます。



第2回河内地域土地利用型園芸推進セミナー



園芸立国かわち進化躍進フォーラム

#### (2) 集落営農組織の法人化・組織化

集落営農組織が次々設立し、地域農業の維持発展に向けて取り組み始めています。

平成30(2018)年度は、「農事組合法人石那田ファーム」と「農事組合法人願成寺」が法人設立され、「下篠井集落営農組合」と「川俣町集落営農組合」が新たに組織化を図りました。河内管内では33集落営農組織（うち法人8組織）になります。

宇都宮市篠井地区の「農事組合法人石那田ファーム」は、組合員数32名、経営面積約42haで平成31(2019)年1月6日に設立されました。土地改良事業をきっかけとして地域の話し合いが進み、法人化となった組織で、今後、区画整理された農地を活用し、効率的で大規模な経営の実現を目指していきます。現在、農地中間管理事業の活用も検討されています。

上三川町の「農事組合法人願成寺」は、「願成寺集落営農組合（平成18(2006)年設立）」を母体に組合員数17名、経営面積約24haで平成31(2019)年2月24日に法人設立されました。地域内の他の農事組合法人と連携して農地中間管理事業を活用し、効率的な経営の実現を目指しています。

地域農業の担い手を確保するため、今後も集落営農組織の法人化・組織化を積極的に推進します。



石那田ファーム設立総会



願成寺全体会議

### (3) グリーン・ツーリズムの推進

昨年度立ち上げた「河内グリーン・ツーリズム研究会」をとおして、旅行会社と連携し、述べ29本の農業農村体験ツアーを開催しました。

また上三川町では「地元企業との連携によるグリーン・ツーリズム」をテーマとして、日産自動車栃木工場と連携し、社員を対象としたモニターツアーを実施し、今後の可能性を感じました。

一方では、グリーン・ツーリズムの課題である「地域外への情報発信」に対し、新たにフェイスブック「かわちわくわくちゃんねる」を開設し、SNSを利用した情報発信を試みました。



河内グリーン・ツーリズム研究会

### (4) 六次郎販売会の開催

河内地域では、管内の生産者が開発した6次産業化商品に「六次郎」の愛称を付けPRを行っています。

その一環として、昨年度に引き続き、東武宇都宮百貨店で、6月、11月、2月に「六次郎販売会」を開催しました。生産者自らが店頭立ち、消費者と交流しての試食販売を行い「六次郎」の認知度向上に努めました。

また、「六次郎」商品を使った料理等のレシピ集を作成し、より多くの方に「六次郎」の食べ方を提案することで興味を持ってもらう取組も行いました。



六次郎販売会（東武宇都宮百貨店）

### (5) ユニバーサル農業の推進

県では、今年度から「農福連携」を進めるため、とちぎセल्पセンターを窓口として農業者と障害者福祉施設との間で、農作業の受委託をマッチングする取組を始めました。

河内地域でも農福連携のマッチングを積極的に行い、今年度7件のマッチングを支援しました。

また、農福連携の理解促進を目的に「農福連携実践農場見学会」を6月に開催し、障害者と実際に連携を図っている農場の事例を紹介し、意見交換を行いました。当日は農業者、福祉関係者等約70人が参加し、関心の高さが伺われました。



「農福連携」実践農場見学会



## (6) 「スカイベリー」の品質向上と県内一の産地育成

県育成のいちご品種「スカイベリー」は、新品種として平成24年度から実証栽培を開始し、推進を図りましたが、着色不良果や食味のばらつきといった課題がありました。そこで、「とちおとめ」との栽培管理の違いを明確にして課題解決の技術支援を行い、JAと連携して新規栽培者の掘り起こしを行った結果、平成31年産では栽培者が46戸、栽培面積が5.8haまで増加し、JA単位では県内最大の産地となりました。

また、栽培マニュアルに基づいた栽培やICTを活用した栽培環境データの「見える化」により、品質改善に取り組みました。品質・糖度調査結果に基づく食味向上に向けた重点指導を実施し、12～2月の平均糖度が9.3度となる改善を図りました。

品質の向上は年々図られているものの、まだ個人差が大きいため、今後の対応策として、食味向上に向けた摘花（果）等の栽培技術導入の支援を行います。また、新規栽培者等を対象とした個別巡回指導を継続し、更なる普及推進と品質向上を目指します。



スカイベリー出荷目揃会



スカイベリー

## (7) にはら新品種「ゆめみどり」及び新技術「早期捨て刈り連続収穫栽培」の普及推進

県農業試験場が開発した“にはら新品種「ゆめみどり」”は、収穫を重ねても葉幅の低下が少なく品質が安定しており、葉鞘長が長い調整作業がしやすいという特徴があります。平成27年度は10aで試験栽培されていましたが、徐々に作付面積が増加し、平成30(2018)年度には358aとなりました。

また、ウォーターカーテン保温技術を活用した「早期捨て刈り連続収穫栽培」の確立を目指し、平成29年度から現地技術実証展示ほに取り組みしており、1作で10回収穫、慣行栽培の4倍以上に当たる単収18.5t/10aの実績を上げています。優良な成績が得られたことから、平成30(2018)年12月に「ゆめみどり」栽培者やウォーターカーテン保温技術導入志向者を対象として、「ゆめみどり」及び「早期捨て刈り連続収穫栽培」の現地検討会を開催したところ、18名が出席し、活発な意見交換が行われました。今後は、早期捨て刈り連続収穫栽培の普及推進資料を作成し、ウォーターカーテン導入者を中心に更なる普及推進に取り組んでいきます。



ゆめみどり栽培風景



早期捨て刈り連続収穫栽培現地検討会

## (8) 県内初の「レモン研究会」設立！

河内農業振興事務所では、河内地域戦略2「地域ポテンシャル発揮！園芸立国かわち」の重点推進事項であるマーケットイン型の新規園芸品目の産地形成を図るため、関係機関と連携して、レモンの産地化に取り組んできました。

その結果、栽培者数9名、193本のレモンが導入・栽培され、今年度は新たに栽培者2名が増える見込みです。そこで、栽培技術の向上、生産者の連携強化を目的に、平成30（2018）年10月31日、「レモン研究会（事務局：宇都宮市）」が設立されました。本県では初のレモン生産者の組織設立となります。

今後は、研究会の活動を通じて、新規栽培者を確保し、栽培技術の高位平準化、実需者とタイアップした産地づくりに向け、関係機関と連携し、更なる産地拡大及び販売体制の確立に取り組んでいきます。



研究会設立総会



新植されたレモン

## (9) 水稻の省力・低コスト技術の推進

担い手への農地集積・集約化が進む中、土地利用型経営体の持続的な発展を図るため、稲作の省力・低コスト生産技術の導入が求められています。そこで、関係機関・団体と連携した展示ほを設置し、これらの技術の実証及び普及に取り組んでいます。

その結果、水稻の高密度播種苗栽培や流し込みによる追肥技術の導入が進み、直播栽培と合わせた省力・低コスト栽培技術の面積は約160haまで拡大しています。

また、水田センサーやドローンを利用したICT技術の導入も始まっています。

今後も、省力・低コスト技術やICT技術等の「スマート農業」の実証及び普及に取り組んでいきます。



高密度播種苗の移植状況



ドローンによる除草剤散布検討会

## (10) 畜産クラスター事業を活用した和牛生産基盤の拡大

繁殖農家の減少等により子牛の生産基盤の弱体化が懸念されるため、畜産農家、耕種農家、JA、市町等を構成員とする「JAうつのみや和牛改良クラスター協議会」を設立し、子牛生産基盤の拡大と地域内一貫生産体制の推進を図るため、次の取組を進めています。

- ① 畜舎建築による子牛生産基盤拡大
- ② 地域内一貫経営と肥育期間短縮技術の検討
- ③ 子牛育成マニュアル活用による技術の平準化
- ④ 稲わら等活用による飼料コストの低減
- ⑤ 地域への堆肥の供給拡大



畜産クラスター事業により整備された繁殖牛舎



## (11) うつのみや農業女子結成！

若手農村女性向け講座（旧フレッシュパートナー講座、アクティブパートナー講座）の受講者から、情報交換や知識習得の場となるような同世代のグループ立ち上げの希望があり、過去に講座を受講した女性に呼びかけたところ、意を同じくする11人の女性が集まり、平成30年3月新たに「うつのみや農業女子」が結成されました。

今年度は、メンバーの情報交換や先輩農業者との交流、伝統食・地元食の料理講習会に加え、大宮でのマルシェに出店し、メンバー自慢の農産物のPRを行いました。メンバー間の連絡はLINEグループで行うなど、SNSの有効活用も検討しています。

今後もメンバーの希望を踏まえながら、ネットワークづくりや自己研鑽と経営参画に向けた知識の習得につながる活動を行っていく予定です。



大宮マルシェ出展



伝統料理講習会

## (12) 農業用ため池緊急一斉点検及び農業用ため池保全管理に関する研修会の実施

平成30(2018)年7月の西日本豪雨に伴う農業用ため池の被害を契機に、8月に全国の農業用ため池の一斉点検が実施されました。河内管内では、宇都宮市や農業者の協力の下、33箇所のため池について点検を行いました。

また、11月13日にはため池管理者の日常管理の定着を図るための研修会を開催し、施設の役割、構造、管理の必要性及び抱えている問題点等を説明しました。その後、現地で簡易診断のポイントとして、漏水や施設の外観の異常の有無等の点検方法について説明しました。研修会には農業者等28名が参加し、管理や点検の必要性について熱心に聞き入り理解促進に努めていました。



保全管理の説明



現地研修